

入門シリーズ

講座 ころの友伝道の歴史②

全国連合会の歩み

— 全国連合会発足から ころの友伝道への改名まで —



元新宿西教会牧師
元訪問伝道事務局長

有馬歳弘

幾つかの危機を越えて1969年、超教派の訪問伝道全国連合会が創設されました。会長・島村亀鶴、副会長・中路嶋雄、中島彰、岡田實、書記・横山義孝の各師、会計・沢田起兄でした。そして、第一回訪伝全国連合会総会にて50名の中央委員が選出され、新しい再出発となりました。

1969年11月号の「訪問伝道」誌に島村先生は、「現代は真実のことばを求めている。愛のことばを求めている。生(なま)のことばを求めている。そして、神のことばがあれば、それが天からでなしに、人間を通してききたいと願っている時代である。そして、聖書に書いてあることばをマタイによる、のではなく、マルコ、ルカ、ヨハネによるのではなく、むしろ「あなたによる福音」として、聞きたいと願っている時代である。すなわち、ハート・ツー・ハートに、あなたの体験を通してききたいと願っている。ここに、現代に於ける訪問伝道の意義がある」と語っておられます。以来今日もなお、多くの信徒の皆様が「あなたの福音」の実証をどれだけの方々がされたことでしょう。それを聞いてきました。感動を覚えるノン・フィクションであります。

超教派運動となったため、運動は拡大しました。

30年史によると日本基督教団・253教会を初め、39教団と34の単立教会の出席参加が記録されています。更に支部が誕生し、支部ごとの講習会の働きも始まりました。関西支部(1969年)、関東支部(1975年)、中部支部(1975年)、沖縄支部(1978年)、東北支部(1978年)、四国支部(1980年)、東海支部(1986年)、南九州支部(1989年)の誕生です。

時代は順風満帆とばかりではありませんでした。訪伝誌第267号に差別用語を転載した問題です。「日本の教会は萎縮している……保守的で排他的特殊部落化している」。これに対して部落解放キリスト者協議会から嚴重な抗議と糾弾を受けたことです。隣人の魂を求めている者が差別の文章を載せたことを深く悔い改めて主の赦しを乞わねばならないことを認め、関西、関東の教職有志による差別問題学習会、全国大会での人権問題コーナーでも学習の時を持ったのです。

時代と共に課題も新しくなってきました。「訪問」というと、一部宗教団体の訪問活動と重なって、マイナスイメージに受け取られる。次に人びとの求めが極めて多様であるため、より人格的な細やかな配慮が必要であり、伝道の効果を期待する趣旨のもとに「ころの友伝道」と変更することが第41(1994年)、42回大会時の全体委員会で決定されました。